

鉄道 ・ バス ・ デマンド交通 ・ タクシー ・ 乗用車



- ・ 地方での車社会の浸透により公共交通の利用が低迷
- ・ 利用者の減少から路線や便数が減少、利便性が低下しさらに利用者が減るとの悪循環に
- ・ 高齢化の進行により免許返納者も増加、公共交通の需要はますます高まる

まちの賑わい創出や健康増進

人の交流の活性化

笠松町第5次総合計画より

主な取り組み ①地域を結ぶ公共交通網の充実

- ・巡回町民バスの利用促進
- ・効率的で利便性の高い巡回町民バス路線の整備

免許返納、個人責任か

⑥ 高齢運転者対策と公共交通

2019きふ参院選
民意は
訴える

生活の足、確保されず



運輸「ボート」に限定
た高齢者向け「通称免許」の
人を検討する。この「ボート
」を模した。た、車は「
り込まれた。た、車は「
活の足」として欠かさない
という声も多い。羽島市男
性80は「ふと」とも返
は考えていない。体が動
うちは乗り続けると言
ばり、老人クラブの役員
務めており、外出の機会
多く、「田舎で生活する
で車がないのはおまじ

大野泰正
 候補
 (自民)

地域交通の一層の維持・活性化のため、地域の連携と協働を支援

梅村慎一
 候補
 (立憲民主)

地域公共交通への支援継続、自動運転の実験を積極的に誘致し協力

免許返納 高齢者の足支える

体力や判断力の衰えなどへの意識から、高齢者の間で運転免許証の自主返納への関心が高まる一方、「車がないと生活できない」という声も根強い。返納後の高齢者の「生活の足」をどのように確保するか、地域の事情に応じた模索が始まっている。

（阿部明彦）

[illegible]

「乗り」で気楽に
このクルマは、世界最大の
シニア・バス製造メーカー
「シニア・バス・コーポレーション」
が、

職員の手を借りて降車する
高齢者（右）。同乗する
リハビリ士は、デイスリー
サービスの活用が図られる
（群馬県太田市で）

体かたの解消もたいへん
効果的だ。

福祉車両「相乗り」で気楽に外出



●デイサービスの送迎車を活用した



② 公 共 施 設 巡 回 町 民 バ ス の 沿 革 と 概 要

平成 5 年 8 月	公共施設巡回町民バス試行運行開始（4 回/日）
平成 6 年 5 月	10 人乗りワゴン導入
平成 7 年 5 月	2 台によるコース運行開始（12 便/日）
平成 11 年 8 月	マイクロバス導入
平成 15 年 3 月	運行継続のため「運行協力募金箱」を設置
平成 17 年 10 月	巡回バス運行形態変更（1 乗車 100 円の有償運行） リフト付きバス導入
平成 21 年 4 月	平日の最終便を 18 時台に変更（1 時間延長）
平成 26 年 10 月	新型車両（低床バス）2 台導入
平成 30 年 12 月	乗車人員 200 万人達成



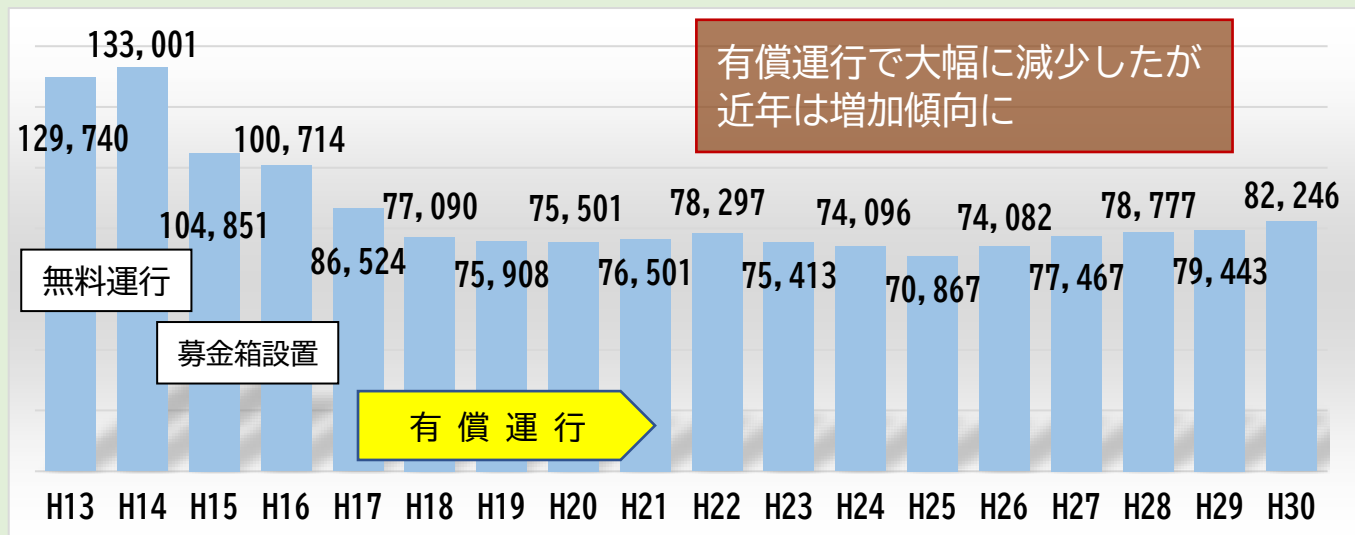
1 号車・2 号車は「かさまつ応援寄附金(ふるさと納税)」を活用して購入しました

運行形態	自家用車の有償運送（道路運送法第 79 条）
運行区間	下門間 ⇄ 役場 ⇄ 米野高瀬 門間線（下門間行き）・米野線（米野高瀬行き）の 2 系統
時 刻	7 時 20 分～19 時 10 分（毎時 20 分発）
運 休	年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
バス仕様	① 33 人乗り小型ノンステップバス 2 台 ② 36 人乗りリフト付きバス 1 台
ダ イ ヤ	12 便／1 日（平日・土曜日）・6 便／1 日（日曜日・祝日）
時 間	1 便あたり 50 分

停留所数	38ヶ所 半径300m 圏内に停留所設置
運賃	1人1乗車100円 回数券(11枚1,000円) (小学校就学前は無料・重度障がい者使用料免除制度有) ※65歳以上の免許返納者免除制度新設(R元/10月~)

年度別乗車人数

(人)



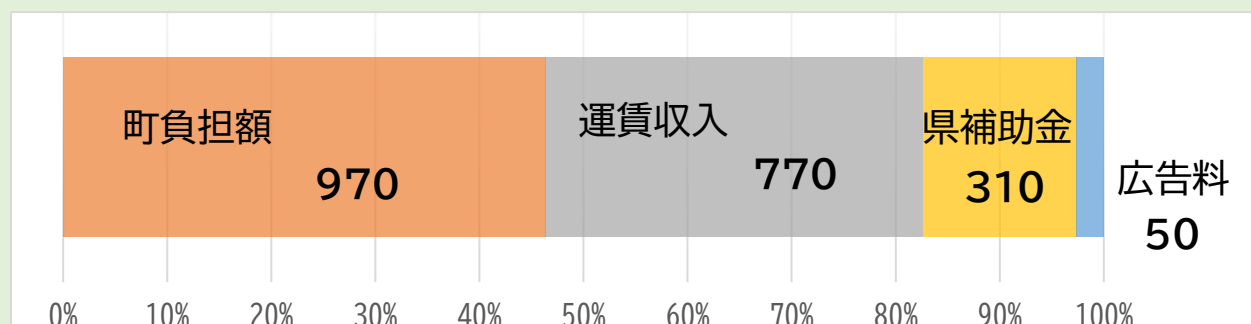
停留所ごとの1か月あたり乗降客数

(人)

下門間発 米野高瀬行				米野高瀬発 下門間行			
乗車数上位		降車数上位		乗車数上位		降車数上位	
名鉄笠松駅	840	名鉄笠松駅	1,058	名鉄笠松駅	917	名鉄笠松駅	1,079
こども館前	607	中野郵便局前	231	中野郵便局前	306	こども館前	547
田代	284	総合会館	215	総合会館	252	田代	270
松枝小学校前	200	スポーツ交流館	188	米野	228	松枝小学校前	167
北及西	194	米野	188	スポーツ交流館	224	北及西	120

平成30年度運行経費の財源内訳

← 運行経費 約 2,100 (万円) →



③ アンケート結果

路線変更や料金の検討する資料として昨年7月から9月に実施し、1,646 件の回答をいただきました

バスを利用して いますか	YES: 60%(922 人) うち高齢者 YES: 74%(269 人) NO: 40%(606 人) " NO: 26%(95 人)
希望する バス停場所	1. 病院 (917 人) 3. スーパー (737 人) 2. 駅 (766 人) 4. 公共施設 (736 人) など
希望使用料	1. ワンコインで一律: 77% (1,266 人) 2. 距離による : 8% (125 人)
希望運行本数	1. 時間帯に応じて: 46% (755 人) 2. 1 時間に 1 本 : 36% (590 人)

④ 抱える課題

安全性の確保

朝や雨天時の道路混雑、厳しい運行ダイヤ

買い物ニーズへの対応

バス停からお店までの距離、買い物難民対策

路線の変更と利便性

交通空白への対応と 1 時間 1 運行の維持

継続可能な収益性

利用者の増加、ネーミングライツなどの導入

⑤ 公共施設巡回町民バスの今後

現在、検討を行っている事項

始発便と最終便の充実

買い物に便利なバスの増便

病院へ行きやすい路線の見直し

近隣市町との連携

